

甲斐市文化財調査報告 第24集
(山 梨 県)

金ノ宮遺跡 I

宅地造成工事に伴う縄文時代・平安時代の発掘調査報告書

2015

甲斐市教育委員会

序 文

2014年9月1日、甲斐市は誕生から10年を迎えました。誕生から10年という、まだまだ歴史が浅いとお考えになる方もいらっしゃるかもしれませんが、市内には甲斐市誕生以前から連綿と人々が活動していた形跡が確認されております。

山梨県最古のミニチュア土器が発見された石原田遺跡、弥生時代の遺跡としては県内有数の規模をほこる金の尾遺跡。また、のちに県指定有形文化財に指定された銅造仏形坐像が出土した松ノ尾遺跡や、山梨県最古の瓦窯跡である天狗沢瓦窯跡など、これらの遺跡以外にも、市内には甲斐市誕生のはるか昔より、現在の市域に暮らした人々の生活の痕跡が大地に残されております。

今回、調査を行うこととなった金ノ宮遺跡は、宅地造成工事を原因とする緊急発掘調査であり、本書はその調査成果をまとめたものであります。

今後は、調査で得られた多くの資料を後世へ伝えるとともに、教育普及活動、さらには地域の歴史解明への良き糧として、活用する所存にございます。

おわりに、土地所有者であります保坂 実氏、工事主体者である株式会社セキスイハウスの文化財保護に対する深いご理解のもと、調査が実施できましたことに感謝するとともに、ご指導、ご協力いただきました関係各位に感謝申し上げます。



2015年3月

甲斐市教育委員会
教育長 加々美 英

例 言

1. 本書は、山梨県甲斐市中下条 567 番地 2 に所在する金ノ宮遺跡第 1 次発掘調査報告書である。
2. 本書は、積水ハウス株式会社による宅地造成工事に先立ち実施した。
3. 発掘調査及び整理分析調査期間
試掘調査 平成 26 年 1 月 23 日～平成 26 年 1 月 24 日
発掘調査 平成 26 年 4 月 24 日～平成 26 年 5 月 19 日
整理分析調査 平成 26 年 5 月 29 日～平成 27 年 2 月 6 日
4. 調査組織は次のとおりである。
調査主体者 甲斐市教育委員会
調査担当者 大寫 正之（甲斐市教育委員会教育部生涯学習文化課文化財係長）
長谷川哲也（甲斐市教育委員会教育部生涯学習文化課文化財係主事）
調査事務局 甲斐市教育委員会教育部生涯学習文化課文化財係
調査協力員 青柳正史、秋山高之助、伊井 実、笠井 治、小林 求、齊藤功記
醍醐三郎、高添美智子、立花重光、田中ひとみ、堤 吉彦、手塚松雄
羽中田 勲、日向充雄、古屋秀雄、深澤友子、森沢篤美、望月典子、横内 博
5. 本書の執筆・編集は長谷川が担当した。
6. 本書掲載の写真撮影は長谷川が撮影した。
7. 整理分析調査における遺物実測、拓本、トレース、図版作成は長谷川の指示のもと高添美智子、望月典子、田中ひとみが担当した。
8. 遺構の測量は疾測量株式会社に委託した。
9. 報告書作成にあたり、次の方々からご教示をいただいた。ご芳名を記して感謝申し上げます。
新津 健氏（甲斐市文化財保護審議会）
河西 学氏（帝京大学山梨文化財研究所）
榎原 功一氏（帝京大学山梨文化財研究所）
10. 金ノ宮遺跡第 1 次発掘調査において得られたすべての資料は、一括して甲斐市教育委員会に保管してある。

凡 例

1. 座標は世界測地系に準拠した。また、標高は東京湾平均海水面水準である。
2. 遺構堆積土及び土器の色調は、農林水産省農林技術会議事務局監修『新版 標準土色帳』に準拠している。
3. 土器断面の  は須恵器、 は灰釉陶器を表す。
4. 出土遺物観察表の計測値欄中、() 内数値は推定を表し、残部の計測は数字の頭に「残」と記した。
5. 遺物番号は本文、挿図、観察表で統一してある。
6. 本書で使用した地図は、国土地理院の地形図（第 1 図）、甲斐市都市計画地図（第 2 図）である。

本文目次

序文	
例言・凡例	
目次	
第1章 遺跡をとりまく環境	
第1節 遺跡の立地と環境	1
第2節 金ノ宮遺跡とその周辺	1
第2章 遺構と遺物	
第1節 基本層序	1
第2節 遺構と遺物	5
第3節 遺構外出土遺物	12
第3章 まとめ	14

挿図目次

第1図 金ノ宮遺跡と周辺の遺跡	2
第2図 調査区位置図	3
第3図 調査区全体図	4
第4図 1号竪穴状遺構・出土遺物	5
第5図 1号竪穴状遺構出土遺物	6
第6図 1号住居跡、1号住居跡カマド断面図、2号竪穴状遺構	7
第7図 1号住居跡出土遺物	8
第8図 1・2・3号土坑、3号土坑出土遺物	9
第9図 4号土坑・1号集石出土遺物	9
第10図 1号集石、4・5・6・8・9・10号土坑、10号土坑出土遺物	10
第11図 7号土坑・出土遺物、11号土坑	11
第12図 遺構外出土遺物①	12
第13図 遺構外出土遺物②	13

表目次

第1表 1号竪穴状遺構出土遺物観察表	6	第6表 1号集石出土遺物観察表	9
第2表 1号住居跡出土遺物観察表	8	第7表 10号土坑出土遺物観察表	10
第3表 土坑観察表	8	第8表 7号土坑出土遺物観察表	11
第4表 3号土坑出土遺物観察表	9	第9表 11号土坑出土遺物観察表	11
第5表 4号土坑出土遺物観察表	9	第10表 遺構外出土遺物観察表	13

写真図版目次

図版1 調査区全景（東から）	
1号竪穴状遺構（南西から）	
1号竪穴状遺構・1号住居跡（北東から）	
1号住居跡カマド（北西から）	
1号住居跡 紡錘車出土状況（南西から）	
図版2 1号集石（北から）	
4号土坑・1号集石・5号土坑（北から）	
7号土坑 土器出土状況（南東から）	
7号土坑（東から）	
10号土坑（東から）	
11号土坑（南西から）	
図版3 第12図-20 土偶	
第11図-18 鉢	

第1章 遺跡をとりまく環境

第1節 遺跡の立地と環境

甲斐市は甲府盆地の北西部に位置し、東は荒川を境に甲府市と接し、西は釜無川・塩川を挟んでそれぞれ南アルプス市・韮崎市と接する。南は昭和町、北は茅ヶ岳を境界として北杜市と接している。市内は大きく3つの地域に分類できる。まず、茅ヶ岳や曲岳など標高1000mをこえる山々が点在する北部の山岳地域、茅ヶ岳などの噴火によって形成された赤坂台地を中心とした中西部の丘陵地域、奥秩父山系の金峰山を源として南流する荒川や、南アルプス鋸岳を源として南流する釜無川により形成された南部の沖積地域である。

報告する金ノ宮遺跡の立地は、前述の地域区分の南部にあたり、荒川によって形成された扇状地の扇中央部に位置する。この地域は東側に荒川が流れ、西側には黒富士、茅ヶ岳の火山活動によって形成された赤坂台地が南北に伸び、台地の裾を荒川の支流貢川が南流する。この荒川と貢川との間にある沖積地には南北に伸びる微高地が東西にそれぞれ一筋ある。それぞれの微高地上に立地する代表的な遺跡として、東側微高地は松ノ尾遺跡、西側微高地は御岳田遺跡や金の尾遺跡があげられ、本遺跡も西側微高地に立地する。また、遺跡の東側は緩やかに落ち込む地形となっており、落ち込んだ部分には旧河川の名残と思われる小河川が流れている。そのため、狭義にはこの小河川と貢川によって浸食された微高地上に遺跡は立地している。

第2節 金ノ宮遺跡とその周辺

本遺跡周辺の遺跡は、縄文時代草期のミニチュア土器が出土した石原田遺跡、古墳時代・平安時代の集落遺跡である原腰遺跡などが立地している。本遺跡は分布調査の結果、地表面から土師器片が採集されたことから平安時代の遺跡と認識されていた。しかし、平成25年度に試掘調査が行われた際、縄文土器片や石器、さらに土偶が出土したことで、縄文時代・平安時代の遺跡であることが明らかになった。

第2章 遺構と遺物

第1節 基本層序

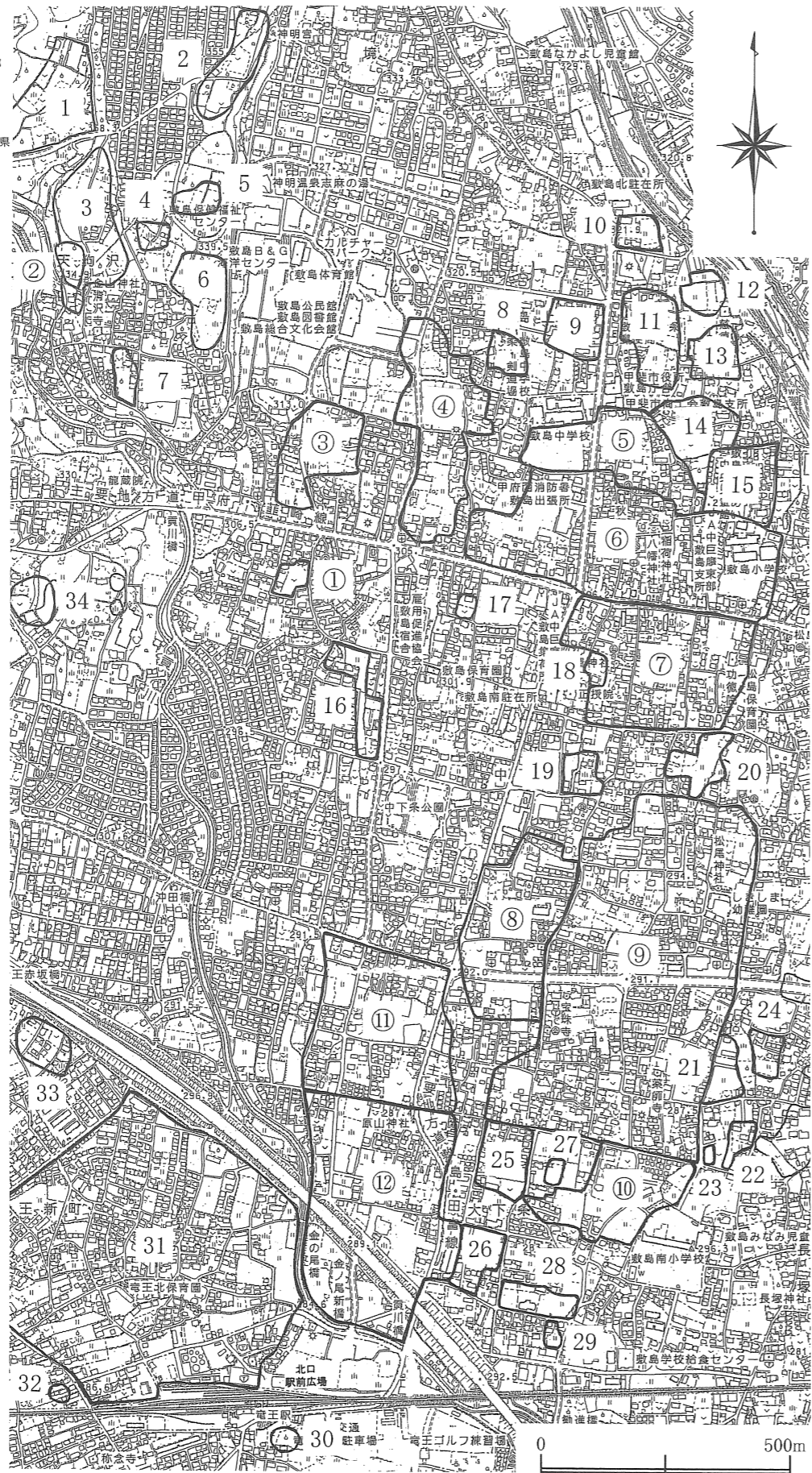
金ノ宮遺跡の基本層序は以下のとおりである。

- 第Ⅰ層 灰色土 旧水田の耕作土。粘性あり。水分を含ませると、粘性は非常に強い。しまりはやや弱い。表土。
- 第Ⅱ層 褐色土 旧水田の床土。粘性は弱く、しまりは非常に強い。
- 第Ⅲ層 黒褐色土 粘性あり、しまりあり。5mm大の褐色粒を微量に含む。
- 地山 褐色土 粘性あり、しまり非常に強い。1mm大白色粒子を少量含む。

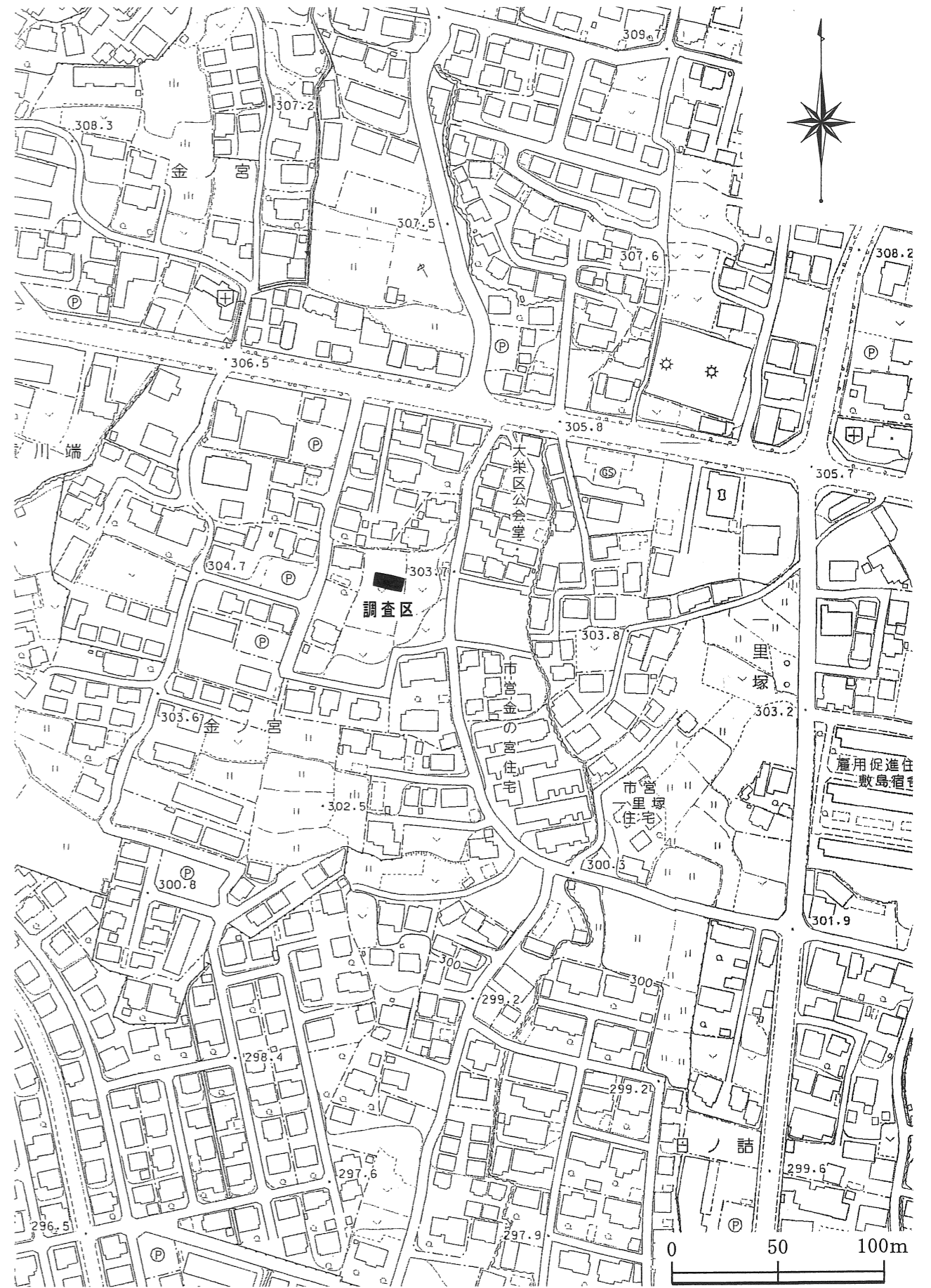
遺物は後世の田畑利用の影響によって第Ⅰ層～第Ⅲ層にわたって出土するが、本来の包含層は耕作利用されていない第Ⅲ層であると思われる。遺構は地表下約30cmの地山から検出された。ただし、調査区は西から東へと緩やかに傾斜しているため、東西で遺構検出面は若干異なる。耕作利用していた時期に、偶然出土した遺物を現地表面に投棄してあり、表面採集した遺物も多い。また、地山に達するカクランが所々で見受けられた。



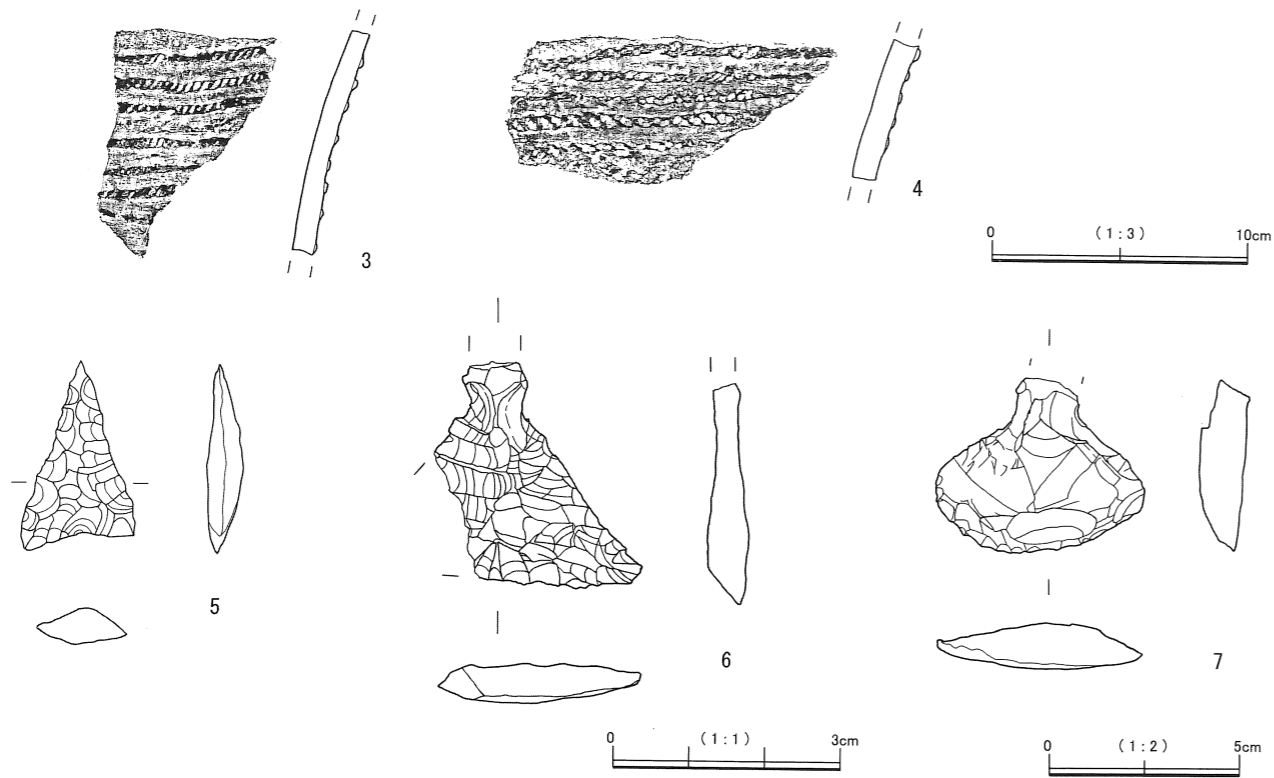
- ① 金ノ宮遺跡
- ② 天狗沢瓦窯跡
- ③ 石原田遺跡
- ④ 原腰遺跡
- ⑤ 山宮地遺跡
- ⑥ 村統遺跡
- ⑦ 不動ノ木遺跡
- ⑧ 三昧堂遺跡
- ⑨ 松ノ尾遺跡
- ⑩ 未法遺跡
- ⑪ 御岳田遺跡
- ⑫ 金の尾遺跡
- 1 村東遺跡
- 2 西ノ原遺跡
- 3 天狗沢遺跡
- 4 上峰遺跡
- 5 上峰北遺跡
- 6 原遺跡
- 7 笹原遺跡
- 8 蛇石遺跡
- 9 上町北遺跡
- 10 大塚遺跡
- 11 塚田西遺跡
- 12 塚田北遺跡
- 13 塚田遺跡
- 14 大庭遺跡
- 15 大庭古墳
- 16 日ノ詰遺跡
- 17 西町遺跡
- 18 前田遺跡
- 19 寺前遺跡
- 20 宮地遺跡
- 21 大下条第1遺跡
- 22 大下条第2遺跡
- 23 大下条第3遺跡
- 24 中沢B遺跡
- 25 泉尻A遺跡
- 26 泉尻B遺跡
- 27 深田A遺跡
- 28 深田B遺跡
- 29 深田C遺跡
- 30 東裏遺跡
- 31 沖田遺跡
- 32 元免許遺跡
- 33 八幡遺跡
- 34 鳥塚C遺跡



第1図 金ノ宮遺跡と周辺の遺跡



第2図 調査区位置図



第5図 1号竪穴状遺構出土遺物

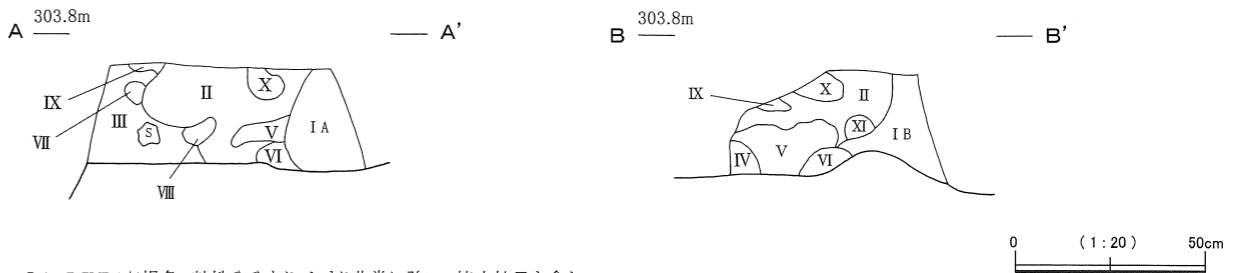
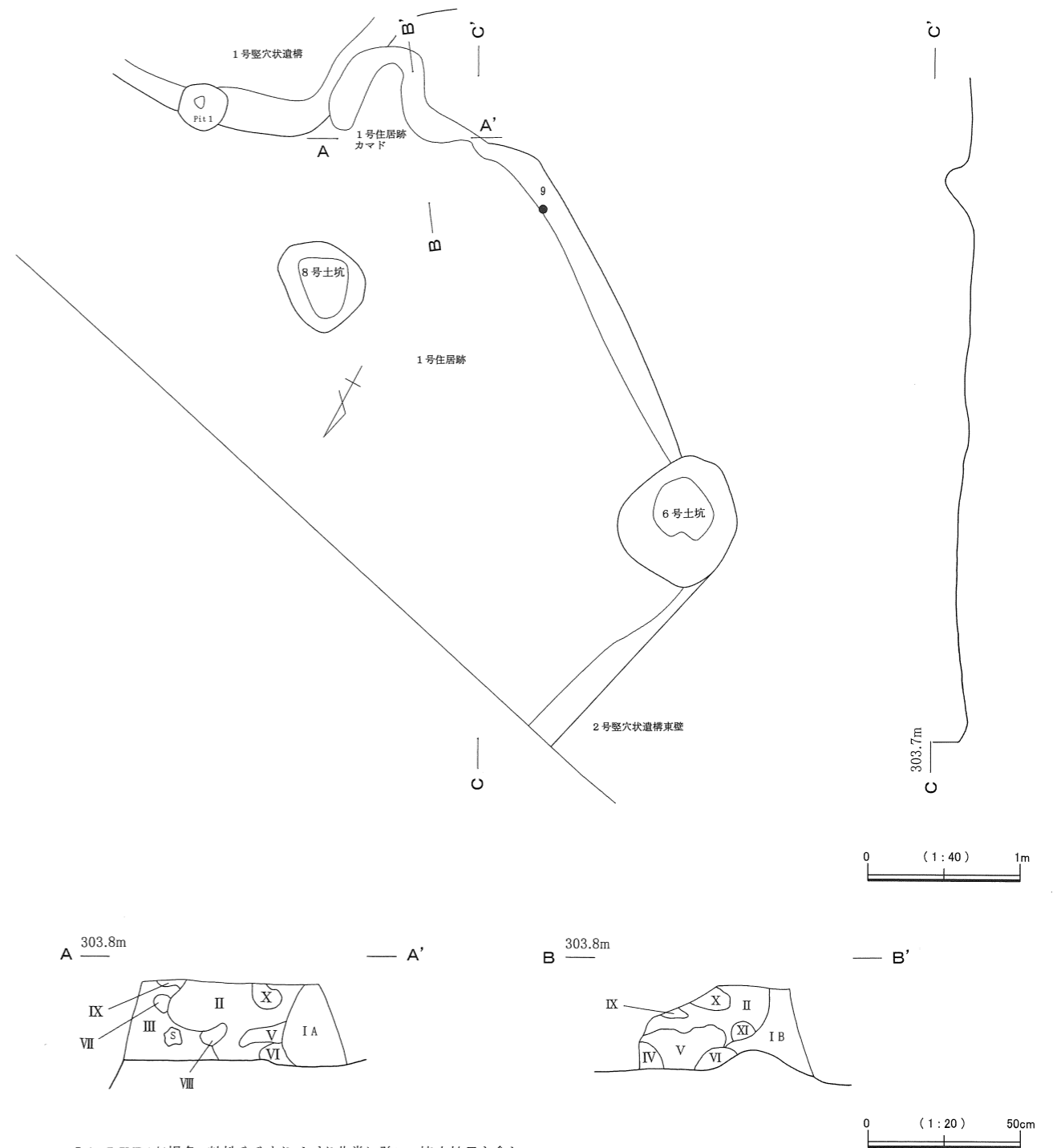
第1表 1号竪穴状遺構出土遺物観察表

番号	注記番号	器種	器形	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	器形の特徴
1	V1-1タテP3	縄文土器	深鉢	残 9.0			にぶい赤褐 5YR4/4	長石を多量に含み、赤色粒子を少量含む。	良好	諸磯式。口縁部に貼付隆帯を1条巡らし、楕円状に隆帯を貼付。爪形文を施し、口唇部に粘土紐を貼付する。
2	V1-1タテ	縄文土器	深鉢	残 7.0			内面 赤褐 5YR4/4 外面 黒褐 7.5YR3/2	キメやや粗く、小石を多量に含む。	良好	諸磯b式。地文は結節縄文で、竹管文を施す。破片上部には半截竹管状工具を用いて爪形文を施す。
3	V1-1タテ	縄文土器	深鉢	残 6.6			にぶい赤褐 5YR5/4	長石・石英・赤色粒子・雲母をまばらに含む。	良好	地文に縄文を施し、横位に7条の粘土紐を貼付し、紐上に縄文を押す。
4	V1-1タテ	縄文土器	深鉢	残 5.4			にぶい赤褐 2.5YR4/3	キメ細かく、白色粒子を含む。	良好	地文に縄文を施し、横位に5条の粘土紐を貼付し、紐上に縄文を押す。
5	V1-1タテ	石製品	石鎌	最大長 2.1	最大幅 1.5	最大厚 0.45				石材：黒曜石
6	V1-1タテS1	石製品	石匙	最大長 3.0	最大幅 2.2	最大厚 0.4				石材：チャート
7	V1-S3	石製品	石匙	最大長 4.6	最大幅 5.5	最大厚 1.2				石材：安山岩 名無し土坑からの出土ではない。

1号住居跡・2号竪穴状遺構（第6図） 調査区東側に位置する。1号住居跡は東西約3m、南北約2.5mを測る。住居の南壁とカマドは残るが、東壁は残存状況が悪く、検出にはいたらなかった。北壁は調査区外となる。

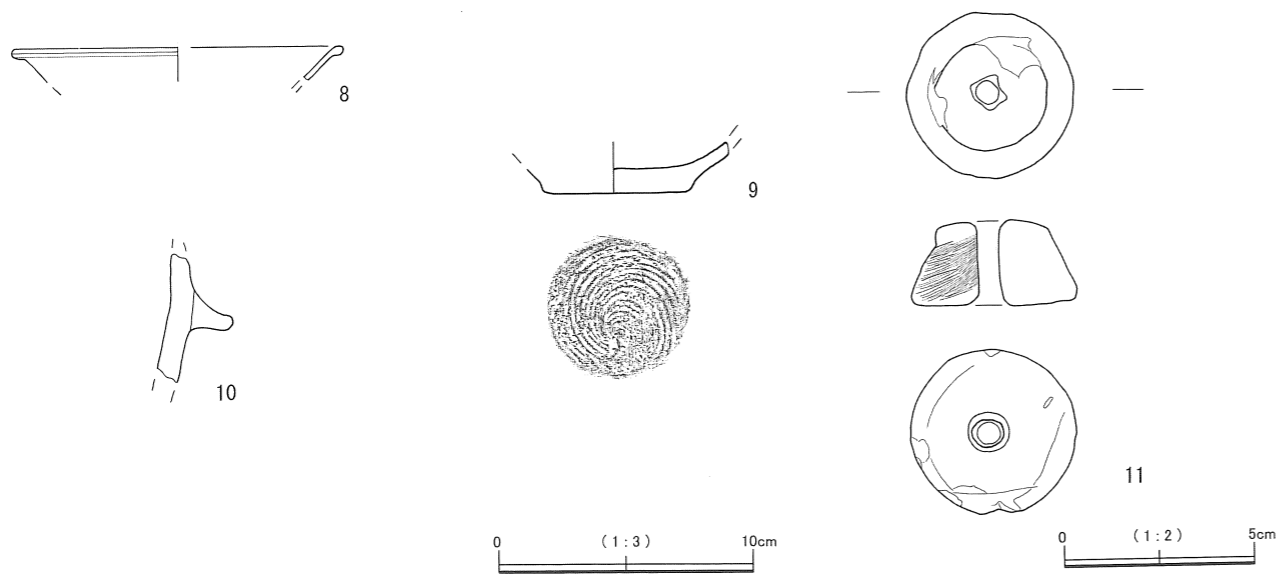
2号竪穴状遺構は、1号住居跡と重複関係にあるとみられ、6号土坑に切られる。その6号土坑をはさみ1号住居跡の南壁と接するため、1号住居跡の西壁とも考えられたが、壁の主軸が異なることから別の遺構であるにとらえ、2号竪穴状遺構とした。

出土遺物は土師器が主であったことから、1号住居跡・2号竪穴状遺構の年代は、『山梨県史 資料編2』奈良・平安時代の編年を参考にした結果、10世紀後半から11世紀前半と思われる。



- I A、7.5YR4/4褐色。粘性ややあり。しまり非常に強い。焼土粒子を含む。
- I B、5YR4/4にぶい赤褐色。粘性ややあり。しまり非常に強い。微量の白色粒子を含む。
- II、7.5YR3/3暗褐色。粘性ややあり。しまり非常に強い。2mm程度の炭化物を少量含む。焼土粒子を微量に含む。
- III、7.5YR3/4暗褐色。粘性ややあり。しまり強い。焼土粒子を微量に含む。
- IV、7.5YR4/4褐色。粘性あり。しまりあり。
- V、5YR4/8赤褐色。粘性ややあり。しまり非常に強い。炭化物を含む。焼土粒を含む。7.5YR4/4褐色土がまばらに含む。
- VI、7.5YR3/1黒褐色。粘性あり。しまりあり。焼土粒子を微量に含む。
- VII、7.5YR4/6褐色。
- VIII、7.5YR5/6明褐色。焼土粒子がまばらに入る。
- IX、5YR5/8明赤褐色。炭化物が少量混じる。
- X、5YR5/8明赤褐色。
- XI、5YR4/4にぶい赤褐色。炭化物を微量に含む。

第6図 1号住居跡、1号住居跡カマド断面図、2号竪穴状遺構



第7図 1号住居跡出土遺物

第2表 1号住居跡出土遺物観察表

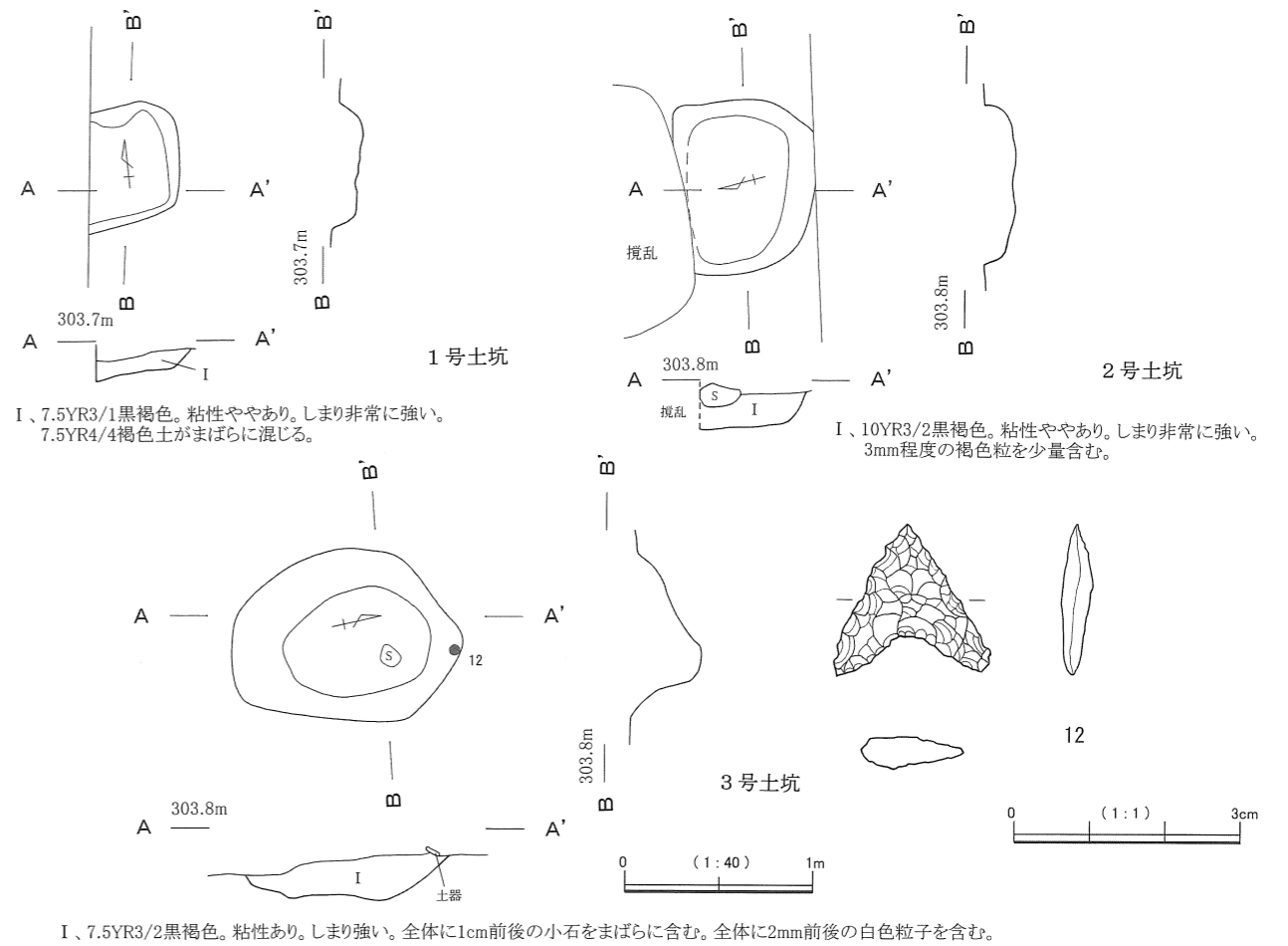
番号	注記番号	器種	器形	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	器形の特徴
8	V1-1住1層	土師器	坏	残1.35	(12.8)		明赤褐 5YR5/6	キメ細かく緻密、赤色粒子を含む。	良好	甲斐型土器
9	V1-1住P1	土師質土器	坏	残1.95		5.85	にぶい黄橙 10YR7/4	キメやや粗く緻密、金雲母・赤色粒子を含む。	良好	底部に回転系切り痕あり。割れ口は磨耗している。
10	V1-1住カマド	土師器	羽釜	残4.6			にぶい赤褐 5YR5/4	やや粗い。長石・石英・赤色粒子・金雲母を含む。	良	
11	V1-1住	土製品	紡錘車	最大長 4.3	最大幅 4.3	最大厚 2.3				斜位にナデ状の模様あり。

(2) 土坑・集石

調査では土坑が11基、集石が1基確認され、図化できる遺物は8点であった。遺物は縄文時代前期の土器片が中心であるが、縄文時代中期の土器片も混じる。7号土坑・10号土坑・11号土坑は、縄文時代前期の土壙墓の可能性ある。

第3表 土坑観察表

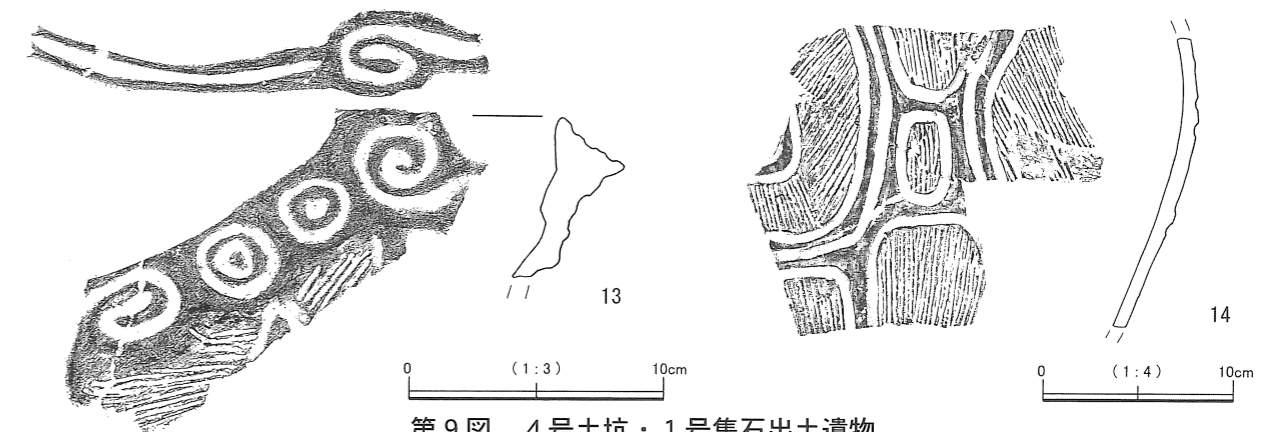
番号	調査区位置	平面形状	規模 (cm)			備考	時期
			長径	短径	深さ		
1号土坑	西側	隅丸方形	67	50	13	西側部分は調査区外。	時期不明
2号土坑	西側	隅丸方形	86	30	18	土坑北側は攪乱に壊される。	時期不明
3号土坑	中央	円形	125	92	37		縄文前期
4号土坑	中央	不正形	136	113	47	南側は1号集石と切り合うも、新旧は不明。	縄文中期
5号土坑	中央	隅丸方形	186	140	20	北側は1号集石に切られる。	縄文前期
6号土坑	中央	円形	84	75	39	1号住居跡、2号竪穴状遺構を切る。	平安中期以降か
7号土坑	東側	円形	112	106	84	検出面付近から人頭大の礫と共に羽状縄文を施した鉢が出土。底付近からは扁平な礫が出土した。	縄文前期
8号土坑	東側	円形	62	53	14		時期不明
9号土坑	中央	円形	70	54	25	ごく少量の縄文土器片が出土。	縄文前期か
10号土坑	東側	円形	68	62	44	検出面付近から、管玉状石製品が出土。縄文前期の土器片が主だが、少量の縄文中期の土器片も出土。	縄文前期
11号土坑	東側	円形	86	56	22	東側は調査区外だが、7号土坑と形態が似る。遺物は少量出土。	縄文前期か



第8図 1・2・3号土坑、3号土坑出土遺物

第4表 3号土坑出土遺物観察表

番号	注記番号	器種	器形	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	器形の特徴
12	V1-3土	石製品	石鏃	最大長 2.0	最大幅 2.0	最大厚 0.4	オリーブ灰 2.5GY5/1			石材:チャート



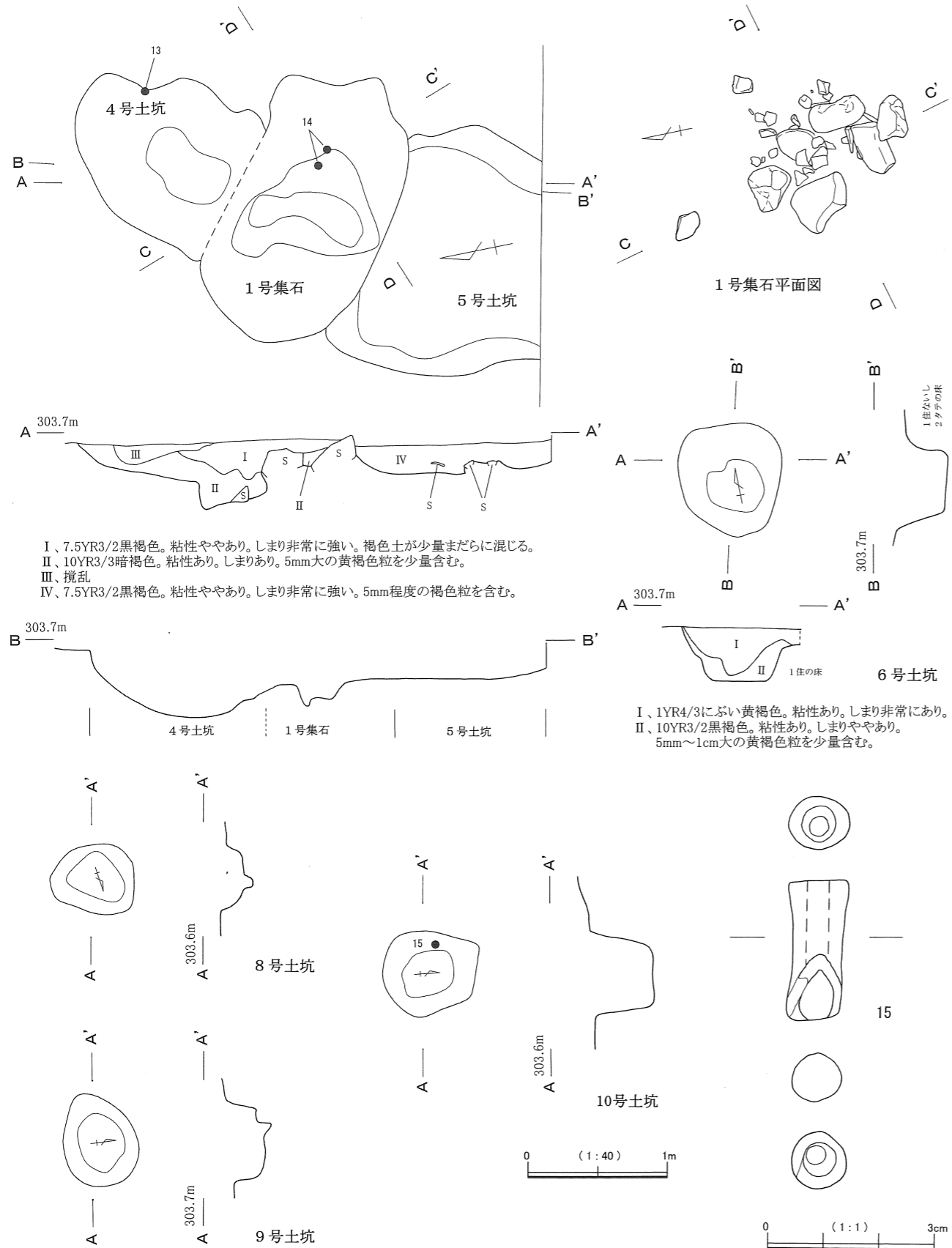
第9図 4号土坑・1号集石出土遺物

第5表 4号土坑出土遺物観察表

番号	注記番号	器種	器形	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	器形の特徴
13	V1-4土P4 V1-4土 V1シクツ-1トレ	縄文土器	深鉢	残5.9			にぶい褐 7.5YR5/4	長石・石英・雲母を含む。	良好	曾利Ⅲ式。肥厚帯口縁を持ち、凹線で渦巻文を口縁部に施す。その下に斜位の条線を施す。

第6表 1号集石出土遺物観察表

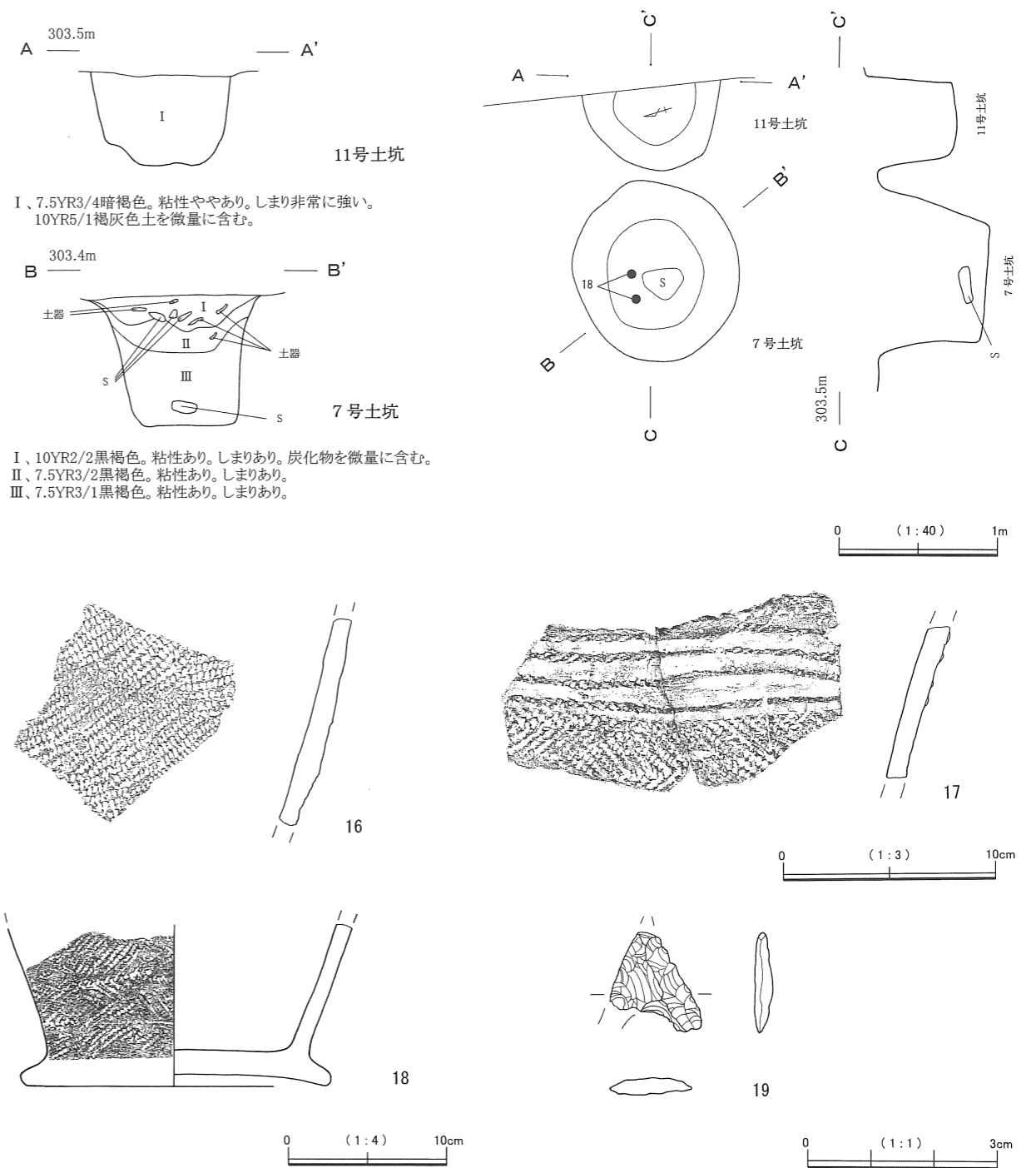
番号	注記番号	器種	器形	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	器形の特徴
14	V1-1集P1・P4 V1-1集直上	縄文土器	深鉢	残15.2			にぶい黄褐 10YR5/3	キメやや粗く、小石を多量に含む。	良好	曾利Ⅲ式。地文は条線で、隆帯には浅い沈線が両側に沿う。



第10図 1号集石、4・5・6・8・9・10号土坑、10号土坑出土遺物

第7表 10号土坑出土遺物観察表

番号	注記番号	器種	器形	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	器形の特徴
15	V1-10土	石製品	管玉状 石製品	最大長 2.5	最大幅	最大厚 0.35	オリーブ黄 5Y6/3			石材：滑石 縄文前期に属するか。



第11図 7号土坑・出土遺物、11号土坑

第8表 7号土坑出土遺物観察表

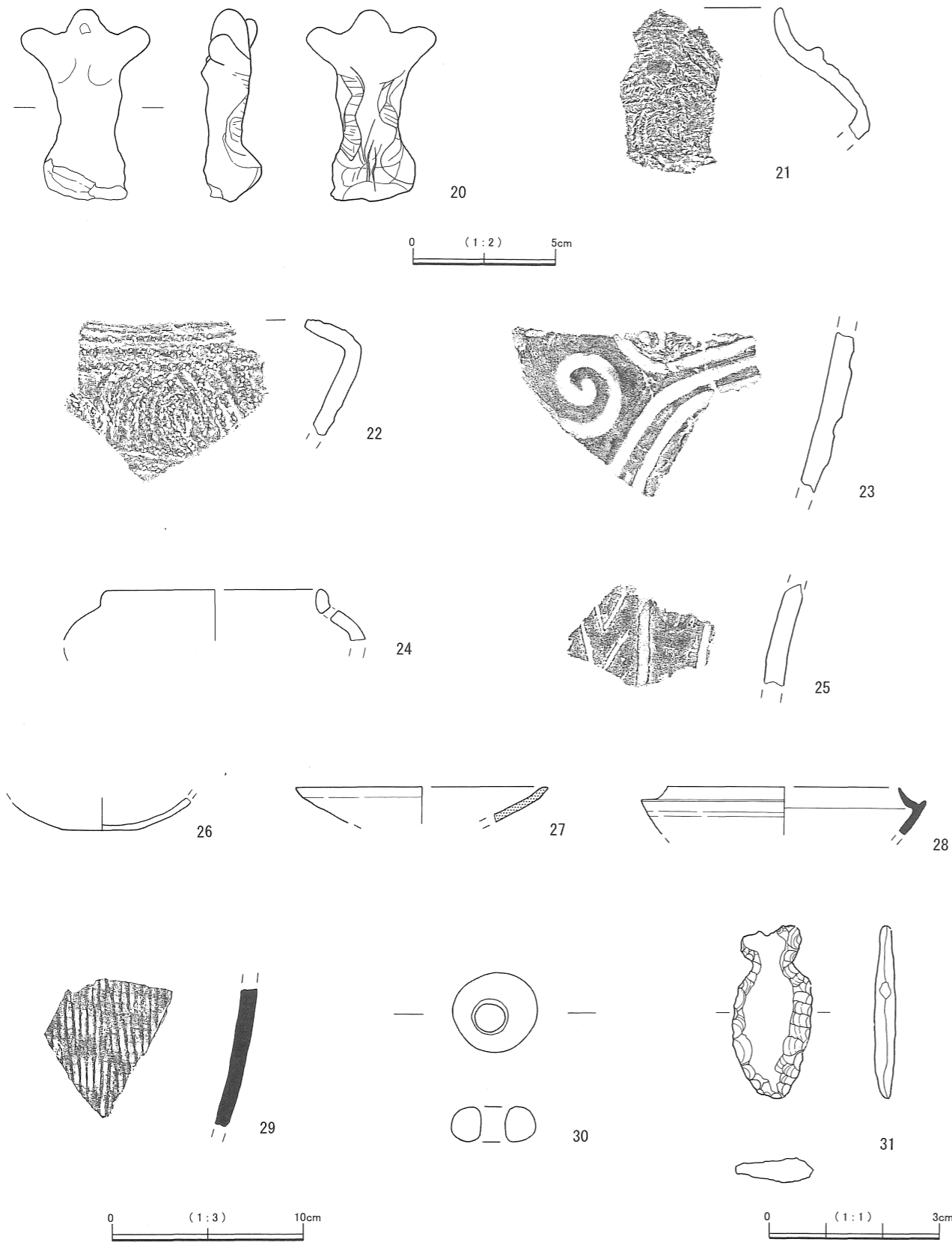
番号	注記番号	器種	器形	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	器形の特徴
16	V1-7土	縄文土器	深鉢	残9.1			にぶい黄褐 10YR5/3	キメやや粗く、小石・ 金雲母を含む。	良好	縄文前期後半。LR単節縄文を施す。
17	V1-7土	縄文土器	深鉢	残6.9			暗赤褐 5YR3/3	キメ細かく、長石・ 石英・白色粒子を含 む。	良好	縄文前期後半。RL単節縄文を地文 とし、地文4条の粘土紐を横位に貼 付しキザミをいれる。破片左部に し無節縄文を施文したような痕跡 あり。
18	V1-7土 P1・P3	縄文土器	鉢	残10.3		18.7	にぶい褐 7.5YR5/4	キメやや粗く、小石 を多量に含む。	良好	縄文前期後半。羽状縄文を施文。 器台型土器に転用か。

第9表 11号土坑出土遺物観察表

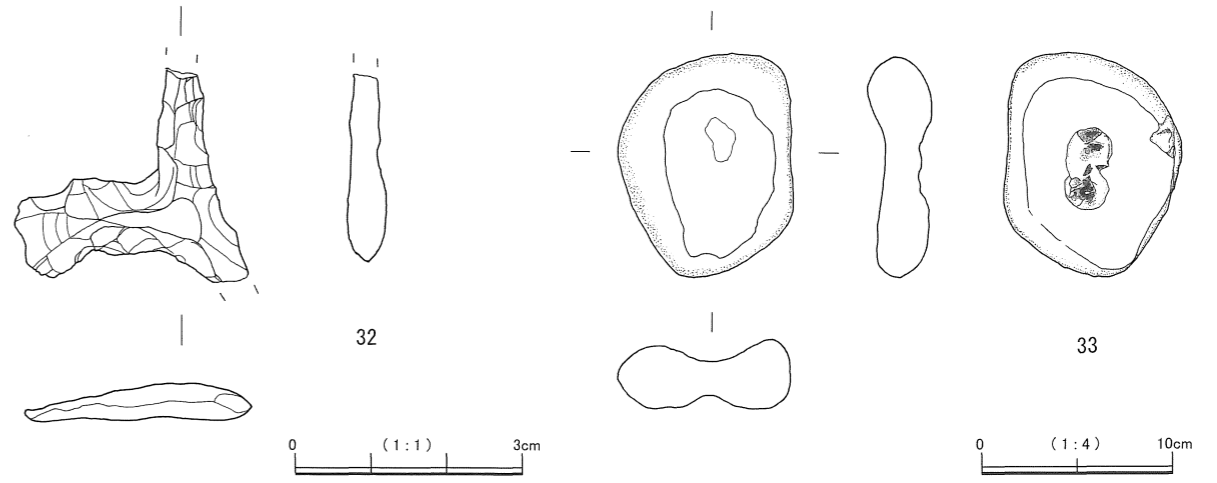
番号	注記番号	器種	器形	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	器形の特徴
19	V1-11土	石製品	石鏃	最大長 1.6	最大幅 1.3	最大厚 0.3				石材：黒曜石

第3節 遺構外出土遺物

特筆すべき遺物として、土偶（第11図-20）があげられる。



第12図 遺構外出土遺物①



第13図 遺構外出土遺物②

第10表 遺構外出土遺物観察表

番号	注記番号	器種	器形	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	器形の特徴
20	—	土製品	土偶	最大長 6.7	最大幅 4.5	最大厚 2.0	黄灰 2.5YR4/1	長石を多量に含む。	良好	縄文中期。串状工具で背面に施文する。
21	V1-シクツ1ト	縄文土器	深鉢	残 4.7			にぶい黄褐 10YR5/3	長石を含む。	良好	諸磯b式。外面粘土紐を貼付しキザミを入れる。
22	V1-一括	縄文土器	深鉢	残 6.0			明赤褐 5YR5/6	長石・石英・雲母を含み、赤色粒子を少量含む。	良好	諸磯b式。口縁部は強く内湾する。地文に縄文を施したのち、器面に粘土紐を貼付しキザミを施す。
23	V1-2層一括	縄文土器	深鉢	残 8.0			灰褐 7.5YR4/2	長石・石英・金雲母・赤色粒子を含む。	良好	曾利Ⅲ式
24	V1-1層	縄文土器	有孔浅鉢型土器	残 2.7	(11.0)		褐灰 10YR4/1	キメ細かく、金雲母を多量に含む。	良好	諸磯b式。頸部にφ4.5mmの穿孔あり。
25	V1-一括	縄文土器	深鉢	残 6.5			褐 7.5YR4/4	長石・石英・金雲母・赤色粒子を含む。	良好	曾利V式。凹線を縦位に施し、「ハ」の字文を施す。
26	V1-2層一括	土師器	坏	残 1.7		3.4	橙 5YR6/6	赤色粒子・長石を含む。	良好	甲斐型土器
27	V1-2層一括	灰釉陶器	皿	残 2.95	(13.1)		灰白 2.5Y7/1	キメ細かく緻密。	良好	
28	V1-一括	須恵器	坏(身部)	残 2.5	(12.0)		内面 灰 N6/ 外面 灰 5Y4/1	長石を含む。	良好	
29	V1-シクツ表採	須恵器	甕	残 7.2			内面 灰 N5/ 外面 灰 N4/	長石を含む。	良好	平行叩き目あり。
30	V1-一括	石製品	白玉状石製品	最大長 1.5	最大幅 0.6	最大厚 0.6	灰オリーブ 5Y5/3			石材：滑石 縄文前期に属するか。
31	V1-S2	石製品	石匙	最大長 3.1	最大幅 1.4	最大厚 0.4				石材：黒曜石
32	V1-シクツ1タテ	石製品	石匙	最大長 2.8	最大幅 3.2	最大厚 0.5				石材：頁岩
33	V1-表採	石製品	凹石/石皿	最大長 11.7	最大幅 9.1	最大厚 3.6				石材：安山岩

第3章 まとめ

本遺跡は、前述したとおり東西を河川にはさまれているため、微高地上に立地している。調査の結果、確認された遺構は住居跡1軒、竪穴状遺構2基、集石1基、土坑11基、ピット3基が確認された。遺物は全体的に縄文土器と割れ口が摩耗した土師器の小破片が出土遺物の大半を占め、接合できるものは遺物出土量と比較して少なかった。また、図化できない大きさの黒曜石片も多く出土した。以下に、主要な遺構の概略を記す。

1号竪穴状遺構は、その覆土に縄文土器片や黒曜石のチップを多量に含む。縄文時代前期の諸磯式期の土器片が主を占めるため、遺構の年代は縄文時代前期と判断した。

1号住居跡は、後世の耕作によって大部分が破壊されていたが、南壁とカマドは残る。カマドに袖石等はなく、床にはりついた構築材の粘土が残っていた。また、焼土がカマド周辺から検出されたものの散見しており、明確なカマドの使用痕跡は見いだせなかった。出土遺物は土師器小片が主であるが、ほかに灰釉陶器、須恵器、縄文土器の各小片が少量出土した。遺構年代は、主を占める土師器小片の口縁部破片、底部破片を観察した結果、10世紀後半から11世紀前半と判断した。また、2号竪穴状遺構も、1号住居跡と同年代と思われる。

7号土坑からは諸磯式期の鉢の底部(第11図-18)が正位で出土した。出土状況は、この土器をはさむように人頭大の礫・拳大の礫が1点ずつ出土し、土坑の底からは扁平な礫が出土した。笛吹市の一の沢西遺跡で上述の土器に類似した土器が出土しており、報告書では諸磯式期の浅鉢として報告されている。本遺跡で出土したのも同時期であろう。しかし、本遺跡で出土したものは、底部の擦痕や土器の外表面に付着した粘土などを考慮すると、器台形土器とも考えられる。本報告では鉢として報告し、器台として転用した土器であると考えた。

10号土坑では遺構確認面から約15cmの深さで、土坑の壁際から管玉状石製品(第10図-15)が出土した。出土した縄文土器片は、縄文前期と中期の土器片である。比率として、前期の土器片が多いことから、10号土坑は縄文時代前期に属するとした。断定はできないものの、7号土坑・10号土坑・11号土坑は、形状と出土遺物から縄文時代前期の土壙墓の可能性も考えられる。

今回の調査で出土した遺物は、縄文土器片と土師器片が主であるが、接合できるものは極めて少なかったことは先に述べた。調査区全体が微高地の西側緩斜面に位置しており、遺構外出土や地表面採取した遺物も多いことから、調査区外から流れ込んで来た遺物もあると考えられる。また、表面採取した遺物は凹石や磨石が多く、調査区内からは無数の黒曜石片が出土した。縄文時代に石器製作を行っていた直接的な遺構は発見できなかったが、これらの遺物から、本遺跡周辺において石器製作を行っていた可能性も浮かび上がった。

出土遺物や遺構から、本遺跡は縄文時代前期・縄文時代中期、平安時代中期の遺跡であるという結論に至った。

<参考文献>

- 長沢宏昌・中山誠二 1983 『一の沢西遺跡・村上遺跡・後呂遺跡・浜井場遺跡』 山梨県教育委員会
山下孝司・瀬田正明 1999 「5 奈良・平安時代の編年」『山梨県史資料編2 原始・古代2』 山梨県
三輪孝幸 2006 『石原田遺跡I』 甲斐市教育委員会
須長愛子 2010 『原腰遺跡II』 甲斐市教育委員会
大寫正之・石神孝子 2014 『御岳田遺跡VI』 甲斐市教育委員会

写真図版



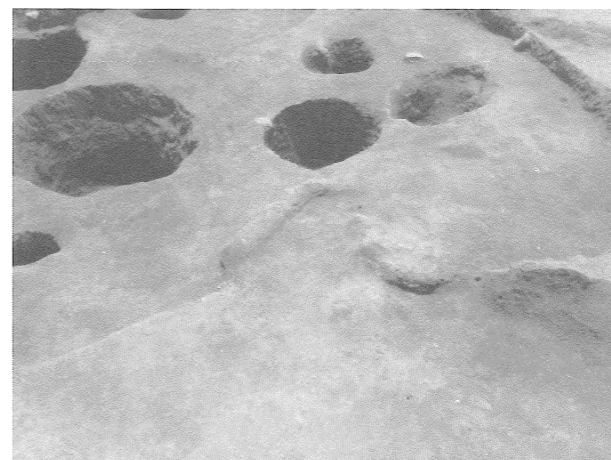
調査区全景（東から）



1号竖穴状遺構（南西から）



1号竖穴状遺構・1号住居跡（北東から）



1号住居跡カマド（北西から）



1号住居跡 紡錘車出土状況（南西から）



1号集石 (北から)



(手前から) 4号土坑・1号集石・5号土坑
(北から)



7号土坑 土器出土状況 (南東から)



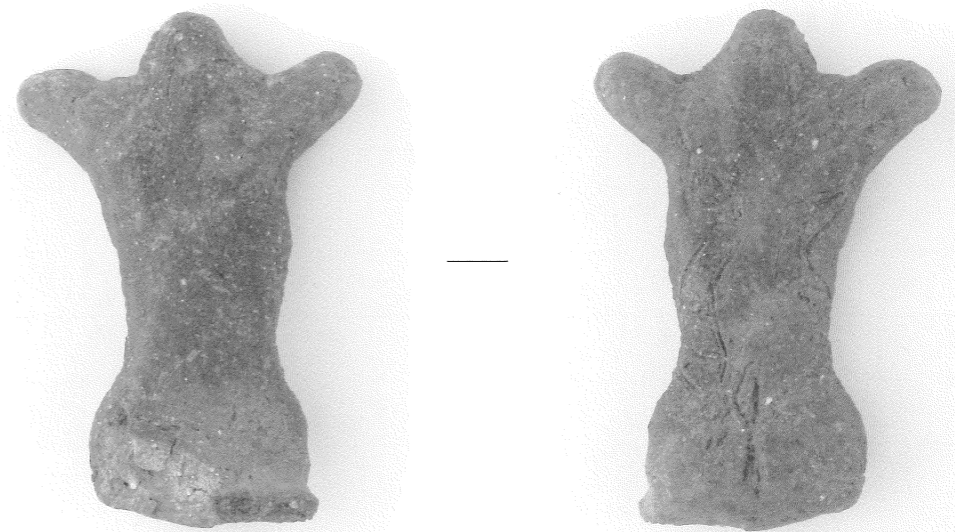
7号土坑 (東から)



10号土坑 (東から)



11号土坑 (南西から)



土偶 (第12図-20)



7号土坑出土
鉢 (第11図-18)



報告書抄録

ふりがな	かねのみやいせき							
書名	金ノ宮遺跡 I							
副書名	宅地造成工事に伴う縄文時代・平安時代の発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	甲斐市文化財調査報告書							
シリーズ番号	24							
編著者名	長谷川 哲也							
編集機関	甲斐市教育委員会							
所在地	〒400-0192 山梨県甲斐市篠原2610							
発行年月日	平成27年〔西暦2015年〕3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	度分秒	度分秒			
かねのみやいせき 金ノ宮遺跡	山梨県 甲斐市 中下条567番2	19210	敷-31	35度41分 2秒	138度31分 13秒	平成26年 4月24日 ～ 平成26年 5月19日	99㎡	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
金ノ宮遺跡	集落跡	縄文 (前期・中期) ・ 平安(後期)	住居跡 竪穴状遺構 土坑 ピット	縄文土器 土師器	試掘調査において、縄文時代中期の土偶が出土した。本調査では、縄文時代前期の土坑から、鉢を器台型土器に転用したと思われる土器が出土。そのほかに、滑石製の管玉状石製品、白玉状石製品が出土。			

甲斐市文化財調査報告 第24集

金ノ宮遺跡 I

発行日 平成27年(2015)3月31日

発行 甲斐市教育委員会

山梨県甲斐市篠原2610

TEL (055)278-1697

印刷 株式会社 峡南堂印刷所